



05 株式会社 鹿内組

しかないぐみ

青森市内唯一の「ブルーベリー観光農園」 甘酸っぱい、初夏の味覚、人気じわり

05-1

無農薬で作る新たな特産品 地域に還元

平成21年(2009年)7月、株式会社鹿内組が青森市横内に開園させた「八甲田ブルーベリー観光農園」。観光目的のブルーベリーの摘み取りは同市内唯一で、約1万1000㎡の園内に10品種、合計約2000本を栽培し、7月上旬～8月上旬のシーズン中は多い年で約1000人が訪れます。

ブルーベリーは目に良いとされるアントシアニンが豊富。健康志向の高まりなどから固定客も増え、ジャムやアイスクリーム、サプリメントなどの加工品も人気です。



「病害虫に強いので薬剤散布の必要がなく、木もそれほど大きくならないので収穫しやすい。極早生種から晩生種まで品種が豊富で、北国に適したものを選ぶことができるのも利点です」と説明するのは、観光農園の管理責任者として事業の立ち上げ当初から企画開発、運営に携わってきた、常務取締役の木村理さん。



初夏の収穫期を迎え、たわわに実ったブルーベリー



防鳥ネットが張り巡らされた八甲田ブルーベリー観光農園。食害防止が課題

「当時は長引く不況の影響で、建設業の経営環境が厳しさを増しており、新分野への参入を模索していました。そこで着目したのがブルーベリー栽培だったのです」

同社では、同市細越に所有する約150haの里山「夢の森」に数百種の植物を植栽し、平成16年(2004年)からはブルーベリー約500本を栽培していました。

「このブルーベリーの栽培規模を思い切って拡大し、観光農園として収益が上がる方向で進めてみよう」

経営者が所有する遊休農地(休耕地)を活用し、県監理課の建設産業新分野進出ブラッシュアップ事業や農地等の特定法人貸付制度を利用して平成20年(2008年)11月から観光農園の整備に着手。本業は建設業なので、重機や材料、黒土の調達などには困りませんでした。しかし、ブルーベリーに適した土壌をうまく作り上げることができず、苗木の育成が遅れるなど、はじめての農業は苦労と失敗の連続だったといいます。

「苗木を植えて2年ほど経つと、鳥の食害に悩まされました。そこで5cm四方の網目の防鳥ネットを設置したものの、翌年からは鳥も学習し、スズメなど小型の鳥は網目をかいくぐって侵入してきました。そのため、現在では2cm四方の網目の防鳥ネットに順次更新しています」

この農園の売りは無農薬栽培。ブルーベリーの葉を食べるコガネムシなどの害虫対策にも手間と時間をかけます。「専用のフェロモン剤を使ったトラップによる捕獲が基本ですが、コガネムシは雑草の根元に卵を産み付けて越冬するため、防草効果がある木のチップを敷き、シーズンが終わっても秋口までに草刈りを行っています。

サプリを開発、販売軌道に ジャムやアイスも好評

こうして大事に育てられたブルーベリー。お客さんからは「無農薬で安心だし、市販品より風味が良い」と評判です。来園客の半分以上はリピーターで、近所の保育園の園児や高齢者福祉施設の利用者など地元を中心とした多くの人たちが、初夏のレジャーとして毎年この時期を楽しみにしているようです。

「確かに企業イメージが変わりました。もう少し頑張れば、もう一本の柱になるのでは」と木村さん。その鍵を握るのが、新たな加工品の開発だと考えています。

「観光農園は1か月限定なので、シーズン以外でも通年で販売できる商品の加工・開発が重要。特製のブルーベリーアイスは年間生産量の1000個が完売する人気ぶりだし、ジャムの売れ行きも大変好調だが、ブルーベリー農業をもう1本の柱にするためには、もっと独創的な商品を考えていかなければなりません」と、新たな商機を探っています。

その一つが、ブルーベリーとカシスに青森県発の機能性素材「あおりPG(プロテオグリカン)」とルテインを配合したサプリメント「プロテオベリー」です。平成30年(2018年)4月から販売開始し、通販大手のフェリシモ(神戸市)にも採用されるなど、軌道に乗ってきました。



自慢の商品を前に説明する木村さん



通年で加工・販売できるジャムも人気商品のひとつ



毎年1000個が完売するほど人気のアイスクリーム

冬の厳しい環境下で働く社員 健康面からサポートしたい

「プロテオベリー」の成分に含まれるあおりPGはヒザ関節などの軟骨再生促進に作用し、保湿効果も期待されています。また、カシスとブルーベリーに含まれるアントシアニンには強い抗酸化作用や免疫力向上作用があり、目の疲労や視力回復に効果がある。ルテインにも抗酸化作用があり、摂取することで眼科障害のリスクが軽減するといわれています」

このようなサプリメントの開発に取り組んだきっかけは、「厳しい冬の環境下で働く社員を健康面からサポートしたい」という、北国の建設会社ならではの思いからでした。目指したのは、①現場作業による膝や腰の痛み②目の疲れ③飲酒などによる肝機能の低下—の克服です。

そこで開発したのが、同社の主力商品「プロテオステップ」でした。第一の課題である関節痛の克服に向けた商品で、軟骨健康成分が威力を発揮し、利用者からは「膝の痛みが緩和された」「痛くてできなかった正座ができるようになった」と大変好評だといいます。

プロテオベリーは、そのプロテオステップに続くサプリメント第二弾。ブルーベリーやルテインなど4つの機能を組み合わせることで、関節のほかに目の疲れを癒す効果をプラスしました。

「形状はドリンクやタブレットなど悩みましたが、カシスもブルーベリーもパウダーにしたものを舐めてみるとおいしかった」と、水なしで食べられる現在の顆粒タイプにしたといいます。

これらの商品開発を主導するのも木村さんの仕事。「当面はこの関節と目の課題克服を先行し、3つ目の肝臓の機能回復に効果があるサプリメントの開発を考えていきたい」と意欲的です。



青森県発の機能性素材・あおりPGにブルーベリー、カシス、ルテインを配合した新商品「プロテオベリー」。同社主力製品の「プロテオステップ」に続く第二弾。

課題は防鳥対策、第二の観光農園も模索

摘み取りだけでなく、サプリメントやアイス、ジャムなど加工品の生産拠点となるブルーベリー観光農園。課題は防鳥対策だといいます。

「1シーズンの売り上げよりも防鳥ネットの設置撤去・購入更新、草刈り、害虫防除などにかかわる経費の方が上回っている」と、もどかしさを感じています。

「収益を上げるには、農地面積を1.5倍程度に拡張しなければなりません。ただ、農地面積が増えれば防鳥ネットの面積も増えます。ネットは台風にも弱く、去年は撤去のタイミングを逃し、3分の1程度は破けて支柱が倒れてしまいました」

現在、ネットを張らずにロボットの遠隔操作などで鳥を追い払うことができないか、構想を膨らませているといいます。

また、3-4年前からは知り合いの農家から標高750mの沖揚平（黒石市）の遊休地を借り、試験的にブルーベリー20本を植えて栽培しています。「ネットを張らずに済む防鳥対策が実現できれば、“八甲田”の名に相応しい第二の観光農園にしたい」。木村さんの挑戦は続きます。



インタビューに応じる株式会社鹿内組 常務取締役の木村理さん

株式会社 鹿内組

本社

030-0122 青森県青森市野尻字今田 97-1

八甲田ブルーベリー観光農園

030-0132 青森県青森市横内神田 19-1

tel. 017-738-2301

fax. 017-738-8480

<http://www.shikanai.jp/>

